



# 雪崩・地すべり 研究センターたより

年3回発行・第70号  
2015. 3月発行

Snow Avalanche and Landslide Research Center, Erosion and Sediment Control Research Group

主な記事 ・平成26年11月22日長野県北部を震源とする地震により発生した土砂災害調査 ・雪崩災害防止功労者表彰式及び雪崩災害防止セミナー ・トピックス ・転出者あいさつ

## 平成26年11月22日長野県北部を震源とする 地震により発生した土砂災害調査

11月22日22時8分頃、長野県北部を震源とするM6.7の地震が発生しました。この地震により小谷村、小川村、長野市で最大震度6弱を観測し、小谷村、白馬村を中心に土砂災害が発生しました。当センターでは、12月2日に桂、丸山、木村が比較的規模の大きな地すべりや崩壊が発生した5箇所について、現地調査を実施しました。今回の調査箇所は、いずれも神城断層の東側（上盤側）に位置しています。当センターでは逆断層地震による地すべりは、上盤側で数多く発生することを研究成果として発表していますが、今回の地震による地すべりも同様な傾向を示している可能性があります。なお、調査報告書は、当センターのホームページに掲載されています。



平川合流点下流での地すべり



八方岩地区での地すべり



市場1号地区での地すべり

## 雪崩災害防止功労者表彰式及び

## 雪崩災害防止セミナー

1月16日に、石川県金沢市で開催されました。国土交通省では、雪崩災害に対する防災意識の向上を図るため、毎年12月1日から7日を「雪崩防災週間」と位置づけ、雪崩災害防止に関する啓発活動を全国的に実施しております。その一環として雪崩災害防止について顕著な功績があった者を表彰するとともに、最近の雪崩災害の特徴と対策等について理解を深めることを目的としたセミナーが開催されています。

なお、今回の参加者は110名でした。

今回の雪崩災害防止功労者の表彰式では、当センターが表彰されました。これは、平成26年2月の関東甲信地方での記録的な大雪による雪崩災害時に行った技術支援に対するものです。また、セミナーでは、



秋山が「雪崩に関する基礎知識」、松下が「2014年2月の大雪時における気象・積雪状況と雪崩発生について」、池田が「2014年2月の大雪で発生した雪崩災害とシミュレーションによる雪崩の再現」と題して各々話題提供をしました。

## トピックス

### ■雪崩災害に対する警戒体制の強化に係る講習会

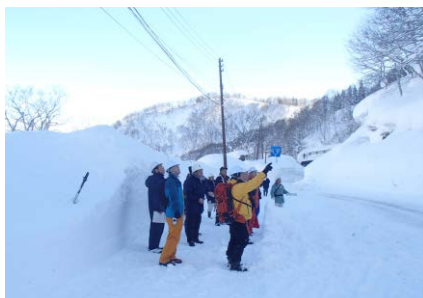
1月8日に新潟県魚沼市で開催され、県、市、町等の技術者47名が参加しました。この講習会は、新潟県により雪崩知識の習得の



場として開催されたものであり、午前の部で座学を午後の部で現場講習が行われました。当センターからは、午前の部で所長の秋山が「融雪地すべりについて」と「集落雪崩対策」を、松下が「積雪期の雪崩対策」と題して各々講演をしました。

### ■雪崩に関する技術支援

1月17日12時30分頃、新潟県妙高市燕温泉で雪崩が発生し、物置のガラスが割れる被害と車1台が巻き込まれ女性1名が骨折する被害が出ました。この雪崩災害に対して当センターに新潟県から技術支援の要請があり、1月18日に秋山所長と松下、池田が新潟県の関係者と現地調査を行いました。



### ■地すべり防止施設点検学習会

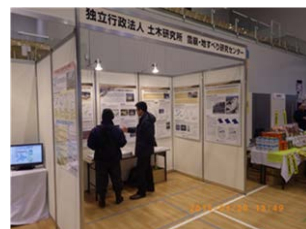
1月28日に、第9回「地すべり防止施設点検学習会」が、群馬県高崎市の国土交通省高崎河川国道事務所（午前の部）と藤岡市の譲原地すべり（午後の部）を会場に開催されました。午前の部では、地すべりチームの杉本主任研究員が「砂防関係施設点検要領（案）による地すべり防止施設の点検」について、当センターの桂が「地すべり地における地表水・地下水排除施設の維持管理」について、それぞれ講義しました。また、午後の部では、調査計測機器の



紹介、当センターによる集水井内観察カメラによる集水井内の点検と、孔内観察カメラによる横ボーリング孔の点検の各実習が行われました。

### ■ゆきみらい

1月30日に、新潟県長岡市で「ゆきみらい 2015 in 長岡」が開催されました。このイベントは、克雪・利雪技術の現状や課題、雪に強い町づくりなどの様々な取り組みに対する意見交換や情報交換を通して、雪国の未来を展望し地域の活性化を図ることを目的として開催されています。当センターでは、松下ほかによる「短時間多量降雪時の積雪特性と雪崩発生の関係について」と題する論文発表と、当センターの研究紹介パネルの展示を行いました。



### 転出者あいさつ

#### ■所長 秋山一弥（H25.4～H27.3在籍）

当センターでの調査研究の実施に際しては、地元をはじめ多くの皆様のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。私は、H12～17の主任研究員の時の5年間と今回の2年間を通算しますと7年間にわたりお世話になったこととなります。在任中には、平成25年の新潟県中越地方での豪雨による斜面災害や平成26年2月の関東甲信地方での記録的な大雪による雪崩災害などが発生しましたが、これらの技術支援を通して、国土保全のための研究の重要性を益々痛感しました。4月1日からは、筑波大学准教授として勤務することになりました。今後も、当センターをよろしく願います。




#### ■専門研究員 木村 誇（H23.12～H26.12在籍）

交流研究員として3年間お世話になりました。赴任早々、国川地すべりの応急対応に参加させていただいたほか、多数の融雪地すべり研究の機会をいただき、貴重な知見を得ることが出来ました。微力ではありますが、センターでの経験を生かし今後も土砂災害の軽減のため努力していく所存です。また、新潟県、長野県の関係者の皆さまにはたいへんお世話になりました。深く感謝いたします。



雪崩・地すべり研究センターに関する記事は、ホームページにも掲載してありますので、ご覧下さい。

発行:独立行政法人 土木研究所 つくば中央研究所  
土砂管理研究グループ 雪崩・地すべり研究センター   
住所:〒944-0051 新潟県妙高市鏡町2-6-8  
TEL:0255-72-4131 FAX:0255-72-9629 URL: <http://www.pwri.go.jp>  
掲載内容は現時点までの調査結果等に基づいています。今後の調査研究により内容の一部または全部に変更が生じる場合があることをご了承下さい。